

* 笹川平和財団 (SPF) はグローバルな視点に立ち、国際的な公益活動を行っている民間助成財団です。SPFの事業には、個々の問題領域からアプローチを行う一般事業と、対象地域を限定した4つの特定基金事業 (笹川太平洋島嶼国基金、笹川日中友好基金、笹川汎アジア基金、笹川中東イスラム基金) があります。
* 「SPF MEDIA source」は、メディア関係者を対象に、財団の事業内容、成果、その他財団内の動きなどを発信することを目的としています。

国際シンポジウム「社会統合政策の課題と挑戦 — 新たな理念と役割を求めて」を開催します



笹川平和財団 (SPF) は、「人口変動の新潮流への対処」事業の一環として、2010年1月14日 (木) に国際シンポジウム「社会統合政策の課題と挑戦—新たな理念と役割を求めて」を開催します (於: 日本財団ビル2階)。

世界は今、国境を越えた人の移動が加速化する一方で、移民排斥や人権問題の摩擦が深刻化しつつあります。しかしそうしたグローバル化の流れに対処し、ホスト社会への積極的な受け入れを図るために、社会統合政策のあり方が問われるようになりました。日本では自治体や NGO が様々な施策を実施しているものの、社会統合に関する法令が整備されておらず、この問題が放置されれば、将来の社会的コストが深刻なものになると懸念されます。

本シンポジウムでは、世界各地の経験や実践に学びながら、社会統合政策の理念や政府・自治体・非営利組織などのアクターが果たすべき役割を考察することにより、日本の社会統合政策の将来像を検討します。

プログラム

- 10:00 ~ 10:30 開会挨拶
- 10:30 ~ 12:00 第1部 ◆多様な展開を見せる社会統合政策—EUにおけるダイナミズム
イレナ・ギティコバ氏 (欧州評議会文化政策・多様性・対話部長)
ジョナサン・チャロフ氏 (OECD 国際移民部政策アナリスト)
安里和晃氏 (京都大学大学院文学研究科特定准教授、笹川平和財団特別研究員)
ファシリテーター: 石弘之氏 (東京農業大学教授)
- 13:30 ~ 15:00 第2部 ◆アジアにおける社会統合政策の胎動
ライ・アーエン氏 (シンガポール大学アジアリサーチ研究所シニアリサーチフェロー)
ツェン・イェン・フェン氏 (台湾大学社会学部教授)
イ・ヘギョン氏 (韓国培材大学社会学部教授)
ファシリテーター: 明石純一氏 (筑波大学人文社会科学部研究科助教)
- 15:15 ~ 16:45 第3部 ◆多様な主体が推進する地域の社会統合
レイラ・ウツマル氏 (ドイツ・デュースブルク市統合局長)
マルコ・ボルスブーム氏 (オランダ・アバカボ労働組合連盟政策アドバイザー)
坂井嘉巳氏 (美濃加茂市市民協働部生涯学習課課長兼中央公民館長)
ファシリテーター: 田村太郎氏 (ダイバーシティ研究所代表)
- 17:00 ~ 17:30 総括討論 司会 小川全夫氏 (山口県立大学大学院健康福祉学研究科教授)
- 18:00 ~ レセプション

「人口変動の新潮流への対処」事業は

人口構成の変化による社会の再編成のあり方に関する調査研究・政策提言を目的として、2008年7月に開始しました。2008～2009年度は「人口構成の変化と労働市場」、「移民政策の国際比較」、「多文化共生・社会統合政策」の3つの分科会を設け、日本の労働政策における外国人労働者の位置づけと出入国管理の特徴、アジア・欧州における外国人労働者政策と社会統合政策、日本における社会統合に関するサービスの供給・需要とそのギャップ等について調査研究を行っています。また研究成果を発表するために、年に一度国際シンポジウムを開催しています。

【事務局】事業部 岡室・佐藤・小成
電話: 03-6229-5434

現在進行中の事業や、財団の活動状況についてお伝えします。

ミクロネシア地域の海上保安機能を向上するための、国際委員会開催の準備作業が進んでいます

笹川太平洋島嶼国基金では、2010年1月の半ばに担当者がミクロネシア3国（マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦、パラオ共和国）を訪問し、3月に予定されている「第1回国際委員会」（於：東京）の開催に向けて関係者との調整を行います。ミクロネシア地域における海上保安機能を向上するための具体的な支援策を検討する国際委員会には、ミクロネシア3国に加え、日・米・豪の政府関係者のほか、笹川平和財団や日本財団の関係者が参加します。

詳細は http://www.spf.org/project/2009/ni1_01.html

『日中関係 40年史(1972-2012)』の研究に着手しました

笹川日中友好基金では、2012年の日中国交正常化40周年に向けて『日中関係 40年史(1972-2012)』（仮称）を刊行する事業を開始しています。これは日本人研究者の視点から近年の日中関係史の分析を試みるもので、東京大学大学院高原明生教授、中央大学大学院服部健治教授、東京大学東洋文化研究所 園田茂人教授、桜美林大学 小熊旭准教授らが参加しています。現在は、政治・経済・社会文化の分野ごとに書籍の内容を検討しており、2010年1月中旬に行う実務者会議で、その構成案が明らかにされる予定です。なお同基金の支援により、中国人研究者の視点から両国の関係を分析した『中日友好交流三十年（1978～2008）』（中国語：北京・社会科学文献出版社刊 日本語：東京大学出版会刊）がすでに出版されています。

詳細は http://www.spf.org/project/2009/c3_02.html

アンワール・イブラヒム元マレーシア副首相らを講師に迎え、人材育成ワークショップを開催します

笹川汎アジア基金の助成によりマレーシア政策研究所が実施する「アジアの再生」事業の一環として、東南アジアの次世代指導者を対象とする人材育成ワークショップが2010年1月24日～29日にフィリピン・マニラで開催されます。ワークショップでは、アンワール・イブラヒム元マレーシア副首相らが講師を務め、ASEAN 諸国の政・官・財の各界より選抜された25名の若手指導者を対象として、域内連携を推進するための基礎知識や教養を学ぶ機会が提供されます。

詳細は http://www.spf.org/project/2009/a2_01.html

SPF が開催した講演会について報告します。



【笹川日中友好基金】

李肇星全国人民代表大会外事委員会主任・前外務大臣を団長とする15名の専門家が来日し、「新たな国際金融枠組みに向けた日中協力」を開催（12月3日）。金融危機の背景や今後の見通し、日中両国の金融協力のあり方などについて議論された。



【笹川中東イスラム基金】

イラク北部のクルド出身であるアミン・バフティール元イラク共和国人権問題担当大臣を招へいし、「イラクの現状と今後の展望」を開催（12月9日）。元大臣は、民族問題、経済開発、域内協力など多岐に渡る視点から同国の現状や今後の展望について講演した。



【SPF】

元米国家安全保障会議アジア部長であるビクター・チャ博士を招へいし、「オバマ政権のアジア政策と日米関係の展望」を開催（12月10日）。チャ博士は、オバマ政権による対日、対中、対韓関係を含むアジア政策全般を総括的に分析した。



【SPF】

キューバ・日本外交関係樹立80周年を記念して、「駐日キューバ大使講演とキューバ音楽の夕べ」を開催（12月14日）。講演会終了後にはレセプションが行われ、延べ150人が参加した。

 笹川平和財団

発行 笹川平和財団
編著 笹川平和財団情報公開担当

〒107-8523 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 4 階
TEL: 03-6229-5438 FAX: 03-6229-5473
E-mail: spfpr@spf.or.jp

<http://www.spf.org>